

1. 国民代表集団における腎機能低下者のリスク因子および生活習慣の状況： NIPPON DATA2010

研究協力者 近藤 慶子（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 特任助教）
研究分担者 門田 文（滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授）
研究分担者 大久保孝義（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授）
研究協力者 平田 匠（東北大学東北メディカル・メガバンク機構 予防医学・疫学部門 講師）
研究協力者 筒井 秀代（帝京大学医療共通教育研究センター 講師）
研究分担者 岡村 智教（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授）
研究代表者 三浦 克之（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授）

NIPPON DATA2010 研究グループ

【背景】腎機能低下予防には、血圧、血糖、血中脂質などのリスク因子の管理とともに、食塩摂取量、喫煙習慣などの生活習慣の管理が重要である。しかし、腎機能の低下は自覚症状を伴わない場合が多く、リスク因子や生活習慣の管理が十分でないことが想定される。

【目的】国民代表集団において、腎機能低下者のリスク因子および食事などの生活習慣の状況を明らかにする。

【方法】全国 300 地区から平成 22 年国民健康・栄養調査に参加し NIPPON DATA2010 への参加に同意した 20 歳以上の男女 2,891 名のうち、腎機能低下者（推定糸球体濾過量 <60 mL/分/1.73 m²）について、調査当時の日本腎臓学会「CKD 診療ガイド 2009」における血圧、血糖、脂質管理推奨基準を満たしている者の割合、ならびに非肥満、現在非喫煙者の割合を算出した。さらに、エネルギー、たんぱく質、食塩摂取量について、慢性腎臓病に対する食事療法基準 2007 年版の基準を満たしている者の割合を算出した。

【結果】腎機能低下者は 339 名（11.9%）で平均年齢は 72.1 歳であり、これまでに腎臓病を指摘された者は全体の 14.5% であった。血圧、血糖、脂質管理の達成率は 20.7%、93.2%、62.8% であり、特に血圧管理達成率が低かった。また、非肥満者は 64.3%、現在非喫煙者は 88.1% であった。食事摂取状況では、エネルギー 27~39 kcal/kg が 58.9%、たんぱく質推奨基準範囲内が 11.9%、食塩 6g/日未満が 11.8% であった。

【結論】国民代表集団における腎機能低下者のうち、実際に腎臓病と指摘されたことのある者の割合は少なく、腎機能低下のリスク因子や生活習慣の管理状況も十分ではなかった。特に血圧管理達成率が低く、食塩摂取量基準を超える者が多かった。今後、腎機能低下のリスク因子や生活習慣管理の重要性について、更なる啓発活動などが必要と考えられる。

日本腎臓学会誌. 2018; 60(7): 1011-1022